

型二次狭窄を形成していた。核形態学的には、前述の 4 taxa は互いに高い類似性を示していたが、キスミレはこれら 4 taxa とは異った核型をもっており、核形態学的には類縁性が低いことがわかった。

○クロガネモチの新品種（新 敏夫） Toshio SHIN: A new forma of *Ilex rotunda* Thunb.

最近クロガネモチの果実の黄色のものが園芸品として、九州方面に出まわりはじめている。初島住彦氏の「日本の樹木」には「黄実のものはキミノクロガネモチとして区別されることがある」と出ているが、まだ学名はつけられていないので、初島氏とも相談の上、次の学名をつけることにする。本品種の野生のものがあるか否かは不明である。

Ilex rotunda Thunb. f. *xanthocarpa* Shin, f. nov.

Fructus flavus.

Loc. Kokubu city, Pref. Kagoshima, Kyushu. (Feb. 28, 1981. Leg. T. Shin et S. Sako) Type in KAG.

Jap. name: Kimino-kuroganemochi.

(鹿児島大学 教養部)

○ナガバノタチツボスミレの一品（中馬千鶴） Chidzu CHUMA: A form of *Viola ovato-oblonga* (Miq.) Makino

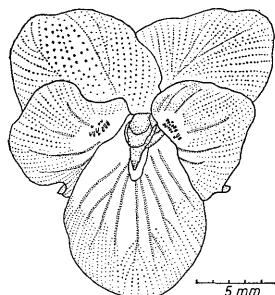


図 1. ナガバノタチツボスミレ

伊勢地方で側弁が有毛のナガバノタチツボスミレを採集した。花は 16~18 mm, 花の色は赤紫色、花弁は卵円形で互いに重なる。側弁は基部が白色、中心部から先端にかけて紅紫色、脈は濃紫色である。側弁の毛は基部近くの上半、白色部に限り出現する。毛は単細胞か二細胞、長さ (42 μ) - 300-(910 μ) × 幅 (21 μ) - 32-(105 μ)、先端部はほどこ型となる。葉は、根出葉は腎形、上部の葉は長三角形で明らかにナガバノタチツボスミレである。神宮宮域林の内宮から神路川に沿って約 3 km にわたり 14 地点で調査した結果、175 株中、151 株が側弁有毛であり残りの 24 株は側弁に毛は見られなかった。

(皇學館高等学校)